

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校

1. 創造力、表現力、活用能力とコミュニケーション能力を持った、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
2. 活気ある学校生活を送る中で、自立心やたくましく生きる力を持つ生徒を育成する。
3. 生徒一人ひとりを大切にする教育活動と、規律ある安全・安心の学校づくりを推進するとともに、生徒が主体的に進路選択できるようキャリア教育を計画的に行い、進路実現を図る。
4. 地域の機関や企業等との連携を深め、地域に愛され、保護者や小中学校の信託に応えられる学校づくりに努める。

### 2 中期的目標 (H27-H29)

めざす学校像の実現に向け以下の取組を行う。

#### 1 「確かな学力」の育成

- (1) 知識・技能を習得し、それらの活用能力、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力等が身につくよう、授業の充実を図るとともに、課題研究の充実、部活動・行事・生徒自治会活動の活性化に取り組み、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
  - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートの活用により授業改善に取り組み、授業の充実を図ることにより生徒の学力を向上する。
  - イ 家庭学習の習慣を各教科で検討し、学校教育自己診断で家庭学習時間1時間以上を60%以上にする。
  - ウ 部活動については生徒自治会と顧問を中心に活性化を図り、平成29年度には部活動加入率80%以上にする。
- (2) 専門性の深化と高等教育機関への接続に対応した教育内容が図れるよう編成作業を推進する。
  - ア 工学系大学進学専科の授業内容や取組みをより充実し、2年後の進路実績を100%にする。
  - イ 全専門系において地域産業と大学との連携授業を取り入れる。
  - ウ 高度な資格や検定の取得の向上を図る。

#### 2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

- (1) 社会人基礎力を養うため、3年間を通した系統的なキャリア教育・進路指導を計画的に推進し、就職・進学ともに、生徒の進路実現100%をめざす。
  - ア 1年生からキャリア教育の充実を図り、2年生でのインターンシップ、3年生での企業実習等の充実を図る。
  - イ 企業訪問等を活性化して、適切な就職指導を実施する。また、進学(大学、高専)合格100%、就職一次内定率80%以上を維持する。離職率調査を実施し、その結果をキャリア教育・進路指導に活用する。
- (2) 全校的な人権尊重の教育を進めるとともに、授業を大切にし、規律ある学校生活ができるよう教員全員で指導に当たる。また、「いじめ」・「体罰」の無い学校づくりを推進する。
  - ア 首席を含め各学年団・分掌・教科・系の連携をより充実し、計画的に推進することで留年者・中退者を2%以下にする。
  - イ 生活指導部を中心に全教職員で生徒の「基本的な生活習慣の確立」にあたる。「いじめ」の発生を防ぎ、懲戒事案の減少をめざす。

#### 3 学校運営体制の確立と教職員の教育力向上

- (1) 教職員が情報や課題を共有するとともに、さらにスムーズに課題解決に取り組むことができる学校運営体制の確立に努める。
- (2) 豊かな経験を持つ教職員による研修や研究授業を推進するとともに外部研修を積極的に推奨し、授業力・生徒指導力のある教職員の育成に努める。
- (3) 指導教諭を中心に計画的・実践的に研修計画を立てるとともに、各学年団・分掌・教科・系においてさらにOJTを推進する。

#### 4 地域連携と安全で安心な学校づくり

- (1) 特別活動を中心に地域貢献を進め、地域産業との連携による企業実習・インターンシップなどキャリア教育の充実を図るとともに、専門高校としての特色ある教育内容について、広く府民への情報発信・PRに努める。
- (2) 教室・クラブ部室・更衣室・学年職員室の整備や学校周辺の環境改善等、生徒の学習環境の改善に向けた学校施設・設備の整備を計画的に進める。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
○生徒用集計結果で肯定率の高いもの ①「高校生活は、人間形成に大切な時期である」 86.4% ②「校内では、挨拶がかわされている」 84.6% ③「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」 83.4% ④「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」 76.9% ○生徒用集計結果で肯定率の低いもの ①「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 36.8% ②「将来の進路に不安はない」 36.9% ③「校内では、清掃がいきとどいている」 40.0% ④「部活動に積極的に取り組んでいる」 44.9% <b>【方針と対策】</b> 学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の意識を把握・比較し、課題を明確し、PDCAサイクルで改善していくための重要なツールである。特に肯定率の低い項目について、課題を教職員全員が認識・共有することで、改善に向けて具体策を検討している。 授業以外の学習時間が1時間未満の生徒が84.4%であることから、講習や家庭での学習習慣を身につけるような取組みを進めている。	第1回(7/13) ○生徒指導について・・・今工の生徒は元気がよく、挨拶など指導が行き届いている。遅刻しない、挨拶、時間厳守は社会に出ての基本なので、しっかり身につけてほしい。 ○学校PRについて・・・進路状況等、工科高校のことをもっとPRすべき。 ○人間教育・・・高校生は大人との接点が少ないので、大人と話すなど、大人との接点を持つことを大切にしてもらいたい。 第2回(11/7) ○文化祭観察・・・全体的に工科高校らしい工夫がされていて良かった。 第3回(12/21) ○生徒指導・・・イヤホン、携帯電話などを使用している自転車運転は、加害者になるケースもあることを伝え、「迷惑をかけない」ことをキーワードに指導してはどうか。 ○進路指導について・・・工科高校からの就職は、正規雇用、一定のキャリアが身につく、離職率が低い等の強みがある。このことをもっとPRすべき。 ○学校PRについて・・・活躍しているクラブ活動の宣伝をもっとするべき。中学校2年生頃から将来の目標が持てるような取組みを高校サイドで提供してはどうか。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) 基礎・基本の学力の定着 ア 授業見学週間と授業アンケートを活用した授業改善 イ 家庭学習時間1時間以上 ウ 部活動の活性化  (2) 専門性の深化と大学への接続 ア 学力向上と工学系大学進学専科 イ 高大連携 ウ 高度な資格	(1) ア・授業見学週間(年4回)と研究授業の拡充 ・授業見学週間、授業アンケート、研究授業を踏まえた教科研修会を実施して授業改善を推進する。(年2回) イ・各教科で調べ学習と発表を推奨する。 ・全系合同課題研究成果発表会の実施 ウ・部活動や生徒自治会活動の充実を進め、高校生活を活気あるものにする。  (2) ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用 ・大学進学専科の取組みの充実 ・習熟度別学習の導入(数学、英語) ・土曜講座の開講と定着 イ・高大連携授業を取り入れる。 ウ・資格取得への組織的な取り組み ・ジュニアマイスター顕彰取得生徒の増加	(1) ア・成績不振者を20%減 ・学校満足度80%以上 ・全教員が年2回以上の授業見学をおこなう。 イ・家庭学習時間1時間以上の生徒を20%以上(H26年度14.3%) ・全系合同課題研究成果発表会生徒アンケート肯定率80%以上 ウ・部活動加入率60%以上(H26年度50%)  (2) ア・外部テスト結果C3以上 ・土曜講座実施回数年間20回以上 イ・全専門系が大学との連携事業を実施 ウ・前年度の10%増加 ・ジュニアマイスター取得20名超(H26年度20名)	(1)ア・途中退学生0.2%(◎) ・原級留置生0.5%(◎) ・学校満足度69.7%→75.3%(○) ・授業見学週間年4回実施。(○) イ・家庭学習時間1時間以上は15.6%(○) ・2/29合同課題研究発表会を実施。アンケート肯定率87%(○) ウ・部活動活性化に取り組み、1年加入率59%(全体52%)。(○) (2)ア・外部テストを全学年定期的に実施。1・2年で結果C3以上。(○) イ・2系で大学連携授業を実施(○) ・土曜講座を11月から開講、今年度は9回実施した。(○) ウ・ジュニアマイスター9名(ゴールド1、シルバー8)、機械系技能検定2級3名・3級21名、電気工事士1種合格15人・2種合格率84.6%等(○)
2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 社会人基礎力を養いキャリア教育の計画的推進 ア キャリア教育、インターンシップ、企業実習 イ 企業訪問・一次内定率  (2) 人権尊重 ア 人権教育 イ 基本的生活習慣	(1) ア・卒業生との連携による進路指導の充実。 ・社会人のマナーをより一層身につけるための指導を教育活動の中で実施する。 ・卒業生の離職調査や進学生の状況調査を実施し指導に活かす。 ・各学年団と進路指導部によるキャリア講演会、見学会を実施し、生徒の見聞を広げる。 ・進学ガイダンスの充実 イ・企業訪問と求人情報等を収集する。 ・学力の向上と面接など事前指導の強化  (2) ア・課題のある生徒に適切な指導と支援を図るための関係者による情報共有の場を設定する。 ・教職員人権研修を充実させる。 イ・基本的生活習慣をより一層定着させる。 ・おはよう運動の継続と強化	(1) ア・卒業生を囲む座談会1回実施 ・インターンシップ参加生徒数50名以上。(H26年度32名) ・就職・進学ともに進路決定率100%継続 ・キャリア講演会4回以上(H26年度4回) イ・企業訪問等100社以上 ・面接指導等を強化し1次内定率80%以上を維持(H26年度82%) ・SPIテスト平均70以上をめざす(H26年度56.3)  (2) ア・いじめ、体罰0 ・教職員人権研修2回実施 イ・遅刻を20%減 ・懲戒件数を20%減	(1)ア・昨年を上回る630件741人(求人倍率3.7倍)の求人(○) ・インターンシップ参加69名(◎) ・就職内定率100%(◎) ・進学現役合格100%(◎) ・3年前卒業生の離職率調査結果17.4%(◎) ・キャリア講演会4回実施(○) イ・企業訪問等100社以上(○) ・就職1次内定率83.5%(◎) ・3年6月SPI平均56.7(○) (2)ア・適切な指導および集会等で注意喚起を行い、いじめ、体罰0。(○) ・教職員人権研修1回(○) イ・朝の校門指導(おはよう運動)を強化し、遅刻28%減少(◎) ・懲戒件数82%減少(◎)
3 学校運営体制の確立と教職員の教育力向上	(1) 学校運営体制の円滑化 (2) 校内で研修や研究授業を推進する。 (3) 研修計画の充実とOJTの推進	(1) 学校運営体制の中に工学系を位置づけ、さらにスムーズに課題解決に取り組むことができる学校運営体制の確立 (2) ICT教材の活用や情報の共有化を図るため、ICT機器活用講習会を実施する。 (3) 系統的・計画的な校内研修を実施するとともに、新任教員及び経験年数の少ない教員の校内研修会を充実する。	(1)・工学系組織をスタートし、本年度中に運営体制を確立 ・生徒指導機能をアップするため、全学年職員室を本年度より設置する。 (2) ICT機器活用講習会を年2回実施。 (3) 新任教員及び経験年数の少ない教員の校内研修会を年5回実施。	(1)・工学系組織をスタート、来年度に向け運営体制確立(◎) ・本年度、全学年職員室設置(◎) (2)・ICT研修会1回実施。来年度はICT機器活用の充実を図りたい。(△) (3) 校内研修会を4月から12月に原則毎週1回実施した。(◎)
4 安心な学校づくり 地域連携と安全で	(1) 専門高校としての特色ある教育内容を、広く情報発信する。  (2) 学習環境の改善を計画的に進める	(1) 地域連携(地域貢献、出前授業、ものづくり教室等)や中学校連携(生徒・教員訪問や進路広報等)を推進する。 ア・中学校教員向け説明会を開催する。 イ・1年生の出身中学校への訪問を実施する。 ウ・教職員で中学校への訪問を実施する エ・中学校等への出前授業を実施する。 オ・本校独自の説明会を実施する。 カ・各種説明会に参加をする。 キ・ホームページの充実、各種媒体による広報活動等により本校の教育実践を広く発信する。  (2) 学校の施設や設備を計画的に改善する。	(1) 志願倍率1.2倍以上(前年度総合募集1.15、工学系0.98) ア・中学校教員向け説明会を年1回は開催する。 イ・1年生の出身中学校訪問100人以上(H26年度51名) ウ・教職員の中学校訪問130校以上(H26年度135校) エ・出前授業5校以上(H26年度3校) オ・学校独自説明会等5回(H26年度6回) カ・中学PTA主催等説明会年間20回以上に参加(H26年度21回) キ・ホームページの更新数を50回増やす。  (2) 全教室の改修	(1)・志願倍率1.00倍(△) ア・中学校教員向け説明会を年2回実施。(○) イ・1年生65名が夏休みを中心に出身中学校を訪問。(○) ウ・教職員で129校の中学校を訪問(○) エ・出前授業実施2校、中学校での進路説明会参加多数(○) オ・体験入学、学校見学会等6回(○) カ・合計19回の説明会を実施または参加して、延べ760名の中学生に説明することができた。(○) キ・学校HPの各学年通信、PTAブログ等を充実させ、更新回数は増加(○) (2) 全教室の改修はできなかったが、施設や設備を可能な限り改善した。(○)